

3

地域で災害に備えよう

大地震や風水害等の災害が発生したときは、建物の倒壊、火災の発生、ライフラインや道路の寸断などが予想され、町や消防などの公的な防災関係機関だけでは対応に限界があります。そのようなときに大きな力を発揮するのが、地域住民の活動です。

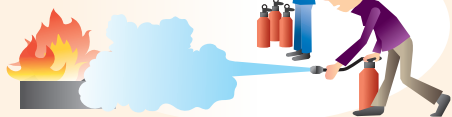
いざというときに力を発揮できるように、日頃から地域みんなで防災活動に取り組むことができるよう、自主防災組織で備えましょう。

自主防災組織の活動

住民自身が自発的に地域で災害に立ち向かうための防災組織で、平常時には災害に備えた組織づくりや防災意識の啓発、実践的な訓練の実施、危険箇所の点検、防災資機材の整備などを行います。

災害時には、地域内の安全確保として初期消火、救出・救護、避難誘導、情報収集などを行うとともに、避難所の運営などの活動も行います。

平常時の活動



防災知識の普及

住民全員が防災に関する正確な知識を持つことができるように、催しなどを行い継続的に防災知識の普及を図りましょう。

防災訓練の実施

いざというときに的確な行動を起こせるように、繰り返し訓練を行い、行動を身につけましょう。

危険箇所の把握

発災時に被害の発生や拡大の原因となるような危険箇所を確認しておきましょう。

防災資機材等の整備

地域の実情に応じて、災害時に活動するために必要な機材を準備し、防災倉庫などに保管しておきましょう。

災害時要援護者の把握

災害時に避難が困難な高齢者や障害者などの災害時要援護者を把握し、支援方法などの確立に努めましょう。

自主防災組織体制の確立

災害時における役割分担など、確実に機能できる組織づくりをすすめましょう。

災害時の活動



初期消火

安全を確保しつつ初期消火を行い、火災の拡大を防ぎます。拡大して危険になった場合には、活動を中止し避難しましょう。まず自分の身を守る事が大切です。

避難誘導活動

災害時要援護者の避難に協力して、全員が安全に避難できるよう避難場所や避難所に誘導します。

救出・救助活動

防災資機材を活用し、周囲の人の協力を求め、負傷者等の救出・救護活動を行います。負傷者には、応急手当をして救護所に搬送しましょう。

情報の収集

被害状況や火災の発生状況を取りまとめるとともに、防災関係機関からの災害に関する正しい情報を入手します。

災害応急対策への協力

給食、給水などの救援活動や清掃、防疫活動、避難所運営の協力をします。

地区本部の設置

地域会館などを拠点として、町の災害対策本部と連携をはかりましょう。